

# 農薬に頼らない水田雑草「ノビエ」の駆除方法

ノビエは水田に生える代表的な雑草です。放置しておくと、水稻が育つために必要な養分を奪い、お米の収穫量や品質を低下させてしまうので、除草剤を使わない有機栽培では農家の一番の悩みの種となっています。

そこで、農薬を使わずにノビエを除草する方法を検討した結果、田植えの6日後と13日後の計2回、水稻の株と株の間を攪拌かくはんすると最も除草効果が高いことが分かりました。

## 1 成果の内容

- (1) 田植え後、13~20日までの間にその年に発生するノビエの9割以上が、土から芽を出してきます。

そこで、田植えの6日後と13日後の計2回、水稻の株と株の間を水田用の除草機で攪拌したところ、ほとんどのノビエを駆除することができました。



ノビエ



水田用の除草機による除草作業の様子

- (2) 自作のチェーン除草機（材料費約2万円）でも、水田用の除草機の代替が可能です。その場合は、田植え後の7日後、14日後と21日後に1往復除草作業を行うことで、除草をしていない場所と比較して約9割の雑草を駆除することができました。



チェーン除草機



チェーン除草機による除草作業の様子

## 2 普及の状況

いすみ市の有機米産地において、水田雑草防除のための米ぬか散布技術や乗用型水田除草機の導入が進められています。

## 3 問い合わせ先 千葉県農林総合研究センター

水稻・畑地園芸研究所 水稻温暖化対策研究室 043-292-0016

## 4 掲載年月 平成30年1月（令和3年3月更新）